

巻 頭 言

情報科学研究センター所長

小 淵 洋 一

『城西情報科学研究』は、今回で第16巻になります。本研究は、第11巻から研究論文についてはレフェリー制度を導入し、新たにスタートしましたが、多くの先生にご投稿いただき、深く感謝致しております。

さて、今回は研究ノート4編、報告4編の計8編、ご投稿いただきましたが、これはこれまでの最高の投稿件数です。残念なことは、研究論文のご投稿がなかったことであります。是非、次回には研究論文のご投稿をお願いいたします。

昨年、巻頭言でも触れさせていただいた e-Learning の授業展開は、城西大学においても大きな課題の一つであります。一昨年の私情協の情報教育フォーラムにおいて、慶応義塾大学経済学部の杉山伸也教授は e-Learning について実演を交えて講演された（その詳しい内容については「私情協ジャーナル」をご覧ください）が、それを聴いて受けた大きな衝撃はいまも強く残っています。杉山教授のような e-Learning の授業展開に際して問題となるのが、e-Learning の教材作成であります。そこで、情報科学研究センターでは、そのような教材作成の負担を軽減し、e-Learning の授業展開が少しでも進むよう、昨年9月にスタートした新情報教育システム、SCNL 2005においてハード・ソフト面の初期的な環境整備をいたしました。特に、ソフト面では、教材作成と教材提示を支援するコースナビを導入するとともに、主に教材作成をサポートする常駐のスタッフを配置しています。

今回も、研究ノートとして理学部の先生によって e-Learning 教材の作成の問題が取りあげられています。上記の杉山教授は、先生が担当されている経済学部の日本経済史の授業において e-Learning の授業をすでに数年前から展開されています。本学の社会系学部一般の授業では、そのような授業展開はまだあまり進んでおりません。経済学部では、「J-Econ」と呼ばれる、e-Learning の経済学教材の開発が進められ、その一部が3年前から新入生の入学前課題として運用されています。この4月、本学ではこれまでの経済学部、経営学部に加えて、第三の社会系学部として「現代政策学部」と呼ばれる新学部が誕生します。私は、その新学部の方に移りますが、新学部でも e-Learning の授業が少しでも多く展開されるよう、自らの授業の改革も含めて取り組んでいきたいと考えております。

新情報教育システム，SCNL 2005 がスタートしておりますが，今後とも e-Learning の授業展開がし易い環境整備に努めていきたいと考えておりますので，ご指導，ご協力の程お願い申し上げます。